

農業革命： スマートアグリ

農業における
科学的知識の意識的・計画的適用

クレジット

「農業革命“スマートアグリ”」
『クローズアップ現代』,
(NHK) より

注目点

- ➡ 科学的知識の意識的・計画的
応用への、第一次産業の組込
- ➡ 農業の特殊性はなくなるか？

農業を取り巻く現状

- [競争面] グローバル化
- [需要面] 食糧危機
 - 新興国の人口増と富裕化
- [供給面] 科学技術の発展
 - 労働対象についてはバイオテクノロジー
 - 労働手段および労働編成についてはIT化

農業における科学的知識の 意識的・計画的応用の問題点

- 必要最低資本（初期投資）の高額化
 - 大規模化が避けられない。
- 科学の発展がまだ追いついていないということ
 - スマートアグリでも、穀物はまだ研究段階である。
- 資本主義的生産にとって、
生産力の発展は手段であって
目的ではないということ
 - 国際的競争においては、労働力の価値が
低すぎるような国における労働集約型の産業が
勝つ場合がある。

農業（自然利用型産業）の 資本主義的モデル

1. 大土地所有者
 - = 有限で独占可能な自然の私的所有者
 - 労働の自然的生産力
(要するに土地の豊度)の違いを
差額地代としてぶんどってしまう。
2. 資本主義的借地農 (capitalist farmer)
 - 投資先の一つとして大規模農業を選んだ。
 - 自ら大土地所有者を兼ねていても構わない。
3. 賃金労働者

農業の資本主義的モデル一般に 共通な問題点

- 大土地所有者と資本主義的借地農とが別人である限りでは、高額な初期投資の一部は困難
 - 超過利潤の獲得のために、借地農が、土地と一体になった初期投資（例えば土壌改良など）を行ったと仮定する。
↓
 - 土地所有者は、次回の契約更改時に、豊度が上がった土地の差額地代の増額を要求しうる。
↓
 - 資本主義的借地農にとって、イノベーションによる超過利潤の獲得と、イノベーションのための初期投資の回収とが不完全になる。

日本農業に特有な問題点

- 戦前
 - 寄生地主と貧しい小作農
 - 地主は大土地所有者だが、実際に農業経営するのは細分化した小土地を借りている大量の小作農
- 戦後
 - GHQの下での農地解放令（1947年）
 - 小土地所有者である大量の自作農
- ↓ こうして
- そもそも資本主義的モデル（大規模農業）が困難